

職業をもつ母親の養育行動と幼児の生活習慣に関する実態調査 —規則的な生活習慣に焦点を当てて—

メタデータ	言語: ja 出版者: 日本小児保健協会 公開日: 2013-08-27 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 堀, 妙子, 奈良間, 美保 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10271/407

職業をもつ母親の養育行動と幼児の 生活習慣に関する実態調査

— 規則的な生活習慣に焦点を当てて —

堀 妙子¹⁾, 奈良間美保¹⁾

〔論文要旨〕

職業をもつ母親が行う規則的な生活習慣に関わる養育と幼児の規則的な生活習慣の実態を明らかにすることを目的に、職業をもち保育園通園中の幼児の母親88名に質問紙調査を行った。その結果、職業をもつ母親の80%以上は規則的な生活習慣に関わる養育を行っていた。この養育の実施率は自営業と常勤の母親で高く、パートタイムの母親は低かった。幼児の規則的な生活習慣で、朝決まった時間に排便をする幼児は6歳でも20%であった。また母親が規則的な食事・睡眠・清潔に関わる養育を行っている場合は、規則的な生活習慣を確立している幼児の割合が多くなる傾向が見られた。母親への育児支援では、母親の就業形態も考慮する必要性が示唆された。

Key words : 養育行動, 働く母親, 就業形態, 規則的生活習慣, 幼児

I. はじめに

幼児期は様々な環境から基本的な生活習慣を身につけていく時期であるといわれている¹⁾。またこの時期の家族を中心とした生活環境は、幼児の生活習慣形成に重要な働きをしているとも述べられている²⁾。近年女性の労働人口増加ともない、職業をもつ母親も増加しているが、このような母親は時間的制約や仕事によるストレスも加わり、非常に困難な状況におかれていることが予測される。さらに母親の就業が幼児の食事時間や登園、帰宅時間などの家庭での生活リズムに影響を及ぼしていることも明らかにされている³⁾。幼児が規則正しい生活を送ることは、幼児の生活習慣の確立に影響している事が予測される。また先行研究⁴⁾によれば、就業形態により母親の子どもに接する態度が違くと

もいわれている。しかし職業を持つ母親の就業形態による実際的な養育行動に関する調査はあまり見られない。そこで職業をもつ母親が幼児に対して行う規則的な生活習慣に関する養育行動と幼児の規則的な生活習慣の実態を明らかにし、職業をもつ母親に対する育児支援を検討することを目的として本研究を行った。

II. 研究方法

1. 対象

対象は、東海地区H市内の保育園に通園する1歳から6歳までの幼児の母親で、職業をもっている母親とした。

2. 方法

質問紙による調査研究を行った。調査内容は、母親が行う幼児の規則的な生活習慣に関する養

A Study of the Child Parenting Behaviors of Working Mothers with Preschool Children in Relation to the Regular Habits of Daily Life.
Taeko HORI, Miho NARAMA,

1) 浜松医科大学医学部看護学科 (看護婦)

別刷請求先: 堀妙子 浜松医科大学医学部看護学科 〒431-3192 静岡県浜松市半田山1-20-1

Tel & Fax 053-435-2821

[1266]

受付 00.10.19

採用 02.1.15

育行動(以下規則的養育とする)と、幼児の規則的な生活習慣、家族背景であった。母親が行う規則的養育に関しては、幼児の生活時間に影響すると考えられる養育行動を中心に自作の質問項目を作成した。排泄・食事・睡眠・清潔に関する計5項目の質問にそれぞれ「全くその通り」4点から「全く違う」1点の4段階での回答を求めた。また幼児の規則的な生活習慣については先行研究⁵⁾を参考に、幼児の排泄・食事・睡眠・清潔の実態に関する計7項目の調査項目を作成し、それぞれ「はい」、「いいえ」で回答を求めた。また、関連する項目として起床時間・就寝時間を調査した。さらに家族背景として、年齢・家族構成・職業などに関する項目を加えた。

保育園に対し調査の目的を説明し、保育士に母親への調査の説明と参加への同意の確認、質問紙の配布を依頼した。無記名回答とし保育園で質問紙を回収した。質問紙は母親135名に配布し回収率は75.4%であった。母親が職業をもっていない場合を除いた有効回答は88名であった。分析はSPSSを用いカイ2乗検定を行った。

母親の規則的養育と幼児の規則的な生活習慣の関係性では、規則的養育で項目間の相関係数が低い項目を除いた4項目の合計を総得点として用いた。項目間の相関係数は0.38から0.54であり、 α 係数0.79であった。

Ⅲ. 結 果

1. 対象の概要

調査対象となった幼児は88名で、性別は男児51名(58.0%)、女児37名(42.0%)であった。幼児の年齢構成は1歳10名(11.4%)、2歳15名(17.0%)、3歳17名(19.3%)、4歳18名(20.5%)、5歳18名(20.5%)、6歳10名(11.4%)、平均年齢3.6歳(SD:1.5)であった。母親の年齢は24歳から43歳で平均年齢は32.2歳(SD:4.7)であった。

母親の職業は常勤53名(60.2%)、パートタイム27名(30.7%)、自営業8名(9.1%)であった。同胞がいる幼児は56名(63.6%)、いない幼児が32名(36.4%)、家族構成は核家族72名(81.8%)、拡大家族16名(18.2%)であった。

2. 母親が行う規則的養育について

規則的養育の中で、最も多くの母親が「全くその通り」又は「その通り」と回答していた項目は、「毎日決まった時間にお風呂に入れている」でそれぞれ19名(21.6%)、63名(71.6%)であった。それに続き「毎日決まった時間に寝床に連れていく」がそれぞれ19名(21.6%)、57名(64.8%)となった。「全くその通り」又は「その通り」と回答した母親が最も少なかった項目は「できるだけ規則的に排尿や排便をさせている」でそれぞれ10名(11.4%)、23名(26.1%)であった(表1)。

表1 母親が行っている規則的養育

母親の規則的養育	回 答	全くその通り	その通り	違 う	全く違う
毎日決まった時間にお風呂に入れている		19名 (21.6%)	63名 (71.6%)	6名 (6.8%)	0名 (0.0%)
毎日決まった時間に寝床につれていく		19名 (21.6%)	57名 (64.8%)	12名 (13.6%)	0名 (0.0%)
毎日決まった時間に食事を食べさせている (無回答 2名)		19名 (21.6%)	54名 (61.4%)	13名 (14.8%)	0名 (0.0%)
毎日決まった時間に起こしている (無回答 1名)		18名 (20.5%)	54名 (61.4%)	14名 (15.9%)	1名 (1.1%)
できるだけ規則的に排尿や排便をさせている (無回答 7名)		10名 (11.4%)	23名 (26.1%)	42名 (47.7%)	6名 (6.8%)

n=88

表2 母親の職業と母親の規則的養育の関係

母親の職業	毎日決まった時間に起こしている (無回答1名)				できるだけ規則的に排便や排尿をさせている (無回答6名)				毎日決まった時間にお風呂に入れている		
	全くその通り	その通り	違う	全く違う	全くその通り	その通り	違う	全く違う	全くその通り	その通り	違う
常勤 n=53	16名 (30.8%)	32名 (61.5%)	4名 (7.7%)	0名 (0.0%)	5名 (10.0%)	15名 (30.3%)	25名 (50.0%)	5名 (10.0%)	16名 (30.2%)	36名 (67.9%)	1名 (1.9%)
自営業 n=8	1名 (12.5%)	7名 (87.5%)	0名 (0.0%)	0名 (0.0%)	3名 (42.9%)	4名 (57.1%)	1名 (4.2%)	0名 (0.0%)	1名 (12.5%)	7名 (87.5%)	0名 (0.0%)
パートタイム n=27	1名 (3.7%)	15名 (55.6%)	10名 (37.0%)	1名 (3.7%)	2名 (8.3%)	4名 (16.7%)	17名 (70.8%)	1名 (4.2%)	2名 (7.4%)	20名 (74.1%)	5名 (18.5%)
カイ2乗検定 有意確率	p<0.01				p<0.05				p<0.05		

規則的養育の項目間の関係性では、「毎日決まった時間に食事を食べさせている」について「全くその通り」又は「その通り」と回答していた母親は、「違う」又は「全く違う」と回答していた母親より、「毎日決まった時間に寝床に連れて行く」について「全くその通り」または「その通り」と回答する割合が有意に高かった ($p < 0.001$)。さらに「毎日決まった時間にお風呂に入れている」 ($p < 0.001$) 及び「毎日決まった時間に起こしている」 ($p < 0.05$) との間にも同様の有意な関係性が認められた。また「毎日決まった時間にお風呂に入れている」と「毎日決まった時間に寝床につれていく」 ($p < 0.001$) 及び「毎日決まった時間に起こしている」 ($p < 0.01$) の間、そして「できるだけ規則的に排便や排尿をさせている」と「毎日決まった時間に起こしている」 ($p < 0.05$) との間にも同様の有意な関係性が認められた。

母親の規則的養育と就業形態との関係性では、「毎日決まった時間に起こしている」について「全くその通り」と回答した母親の割合は、常勤が30.8% (16名)、自営業12.5% (1名)、パートタイム3.7% (1名)であった。また「その通り」と回答した母親は、常勤61.5% (32名)、自営業87.5% (7名)、パートタイム55.6% (15名)となった。さらに「違う」と回答した母親は、常勤7.7% (4名)、自営業0.0%、パートタイム37.0% (10名)、「全く違う」と回答した母親は、常勤・自営業ともに0.0%、パートタイム3.7% (1名)となり、規則的養育と母親の就業形態の間に有意な関係性が認められた。

($p < 0.01$)。同様に、「できるだけ規則的に排便や排尿をさせている」 ($p < 0.05$)、「決まった時間にお風呂に入れている」 ($p < 0.05$) についても母親の就業形態との間にそれぞれ有意な関係性が認められた (表2)。これ以外の規則的養育2項目の実施率と就業形態には有意な関係性が認められなかったが、自営業の母親で「全くその通り」と回答する割合が高い傾向が認められた。

家族構成・同胞の有無と規則的養育との関係性では、拡大家族の母親全てが「毎日決まった時間に起こしている」について「全くその通り」又は「その通り」と回答し、核家族の母親より「全くその通り」又は「その通り」と回答した母親の割合が有意に ($p < 0.05$) 高かった。さらに同胞がいない幼児の母親は、同胞がいる母親よりこの規則的養育を行っている割合が有意に ($p < 0.05$) 高かった。

3. 幼児の規則的な生活習慣について

幼児の規則的な生活習慣の達成について「はい」と回答した母親が最も多かった項目は、「大体決まった時間に寝る」(89.8%)で次いで、「食事の時間は大体30分で終わる」(84.1%)であった。これら2項目はいずれも、1歳児と6歳児の母親全員が「はい」と回答した。一方「はい」と回答した母親が最も少なかった項目は、「朝、決まった時間に排便をする」(19.5%)であり、1歳児の幼児の達成率が最も高かった(44.4%)。「食事やおやつ前に手を洗う」は、1~3歳で増加し、4・5歳で減少、6歳で全

員達成するといった、年齢との間に有意な関係性 ($p < 0.01$) が認められた。その他6項目は達成している幼児が2歳で減少し、3~5歳の間で最低となる傾向が認められた(表3)。

幼児の起床時間は午前6時14名(16.1%)、午前7時56名(64.4%)、午前8時17名(19.5%)、就寝時間は午後8時5名(6.0%)、午後9時48名(57.1%)、午後10時26名(31.0%)、午後11時5名(6.0%)であった。起床時間と就寝時間の関係性では、起床時間が午前6時の幼児の就寝時間は午後9時が最も多く12名中9名(75.0%)、次いで午後8時3名(25.0%)となった。起床時間午前7時の幼児は午後9時が最も多く47名中29名(61.7%)、次いで午後10時17名(36.2%)、午後8時1名(2.1%)となった。さらに起床時間午前8時の場合、午後10時が最も多く10名中7名(70.0%)、次いで午後9時2名(20.0%)、午後11時2名(10.0%)となり、

起床時間と就寝時間に有意な関係 ($p < 0.001$) が認められた。起床時間・就寝時間ともに、幼児の年齢との関係性は見られなかった。

規則的な生活習慣の項目間の分析では、「朝決まった時間に目を覚ます」を達成している幼児は、「大体決まった時間に寝る」($p < 0.001$)、「食後に歯をみがく」($p < 0.01$)、「朝決まった時間に排便をする」($p < 0.05$)を達成している割合もそれぞれ有意に高かった(表4)。また就寝時間との関係では、就寝時間が遅くなるほど「大体決まった時間に寝る」を達成している幼児の割合は低下するという有意な関係 ($p < 0.05$) が認められた。

母親の就業形態と規則的な生活習慣との関係性では、母親が常勤の場合起床時間は午前7時が最も多く30名(63.8%)、次いで午前6時12名(25.5%)、午前8時5名(10.6%)となった。またパートタイムでは午前7時16名(72.7%)

表3 幼児の規則的な生活習慣

生活習慣	年齢 (人数)	1歳 (10名)	2歳 (15名)	3歳 (17名)	4歳 (18名)	5歳 (18名)	6歳 (18名)	全体 (88名)	カイ2乗検定
大体決まった時間に寝る		100.0	93.3	88.2	77.8	88.9	100.0	89.8	
食事の時間は大体30分前後で終わる		100.0	80.0	88.2	72.2	77.8	100.0	84.1	
食事やおやつの前に手を洗う		40.0	86.7	94.1	77.8	77.8	100.0	80.7	*
朝、決まった時間に目をさます		88.9	69.2	62.5	64.7	64.3	77.8	69.2	
おやつは決められた時間に食べる		70.0	53.3	64.7	50.0	50.0	50.0	55.7	
食後に歯をみがく		40.0	35.7	52.9	33.3	38.9	60.0	42.5	
朝、決まった時間に排便する		44.4	13.3	11.8	16.7	22.2	20.0	19.5	

* 年齢との間に有意な関係性が見られた項目 ($p < 0.01$) (%)

表4 規則的な生活習慣の関係性

生活習慣	生活習慣	大体決まった時間に寝る		食後に歯をみがく		朝決まった時間に排便をする	
		はい n=71	いいえ n=7	はい n=36	いいえ n=41	はい n=16	いいえ n=61
朝決まった時間に目を覚ます	はい	53名 (98.1%)	1名 (1.9%)	30名 (56.6%)	23名 (43.4%)	15名 (28.3%)	38名 (71.7%)
	いいえ	18名 (75.0%)	6名 (25.0%)	6名 (25.0%)	18名 (75.0%)	1名 (4.2%)	23名 (95.8%)
カイ2乗検定有意確率		$p < 0.001$		$p < 0.01$		$p < 0.05$	

表5 母親の養育総得点と幼児の生活習慣達成率との関係性

生活習慣 養育総得点	大体決まった時間に寝る	食事の時間は大体30分で終わる	食事やおやつの前に手を洗う	朝、決まった時間に目をさます	おやつはきめられた時間に食べる	食後に歯をみがく	朝、決まった時間に排便する
高得点群 n=31	93.5% (29名)	87.1% (27名)	74.4% (24名)	74.1% (20名)	61.3% (19名)	53.3% (16名)	38.7% (12名)
低得点群 n=54	87.0% (47名)	83.3% (45名)	83.3% (45名)	66.7% (32名)	53.7% (29名)	35.2% (19名)	7.5% (4名)
カイ2乗検定 有意確率							p<0.001

が最も多く、次いで午前8時5名(22.7%)、午前6時1名(4.5%)の順となった。自営業では午前7時が最も多く4名(57.1%)、次いで午前8時3名(42.9%)となり母親の就業形態と起床時間に有意な関係(p<0.05)が認められた。

4. 母親の規則的養育と幼児の規則的な生活習慣の関係性について

規則的養育で項目間の相関が低かった排泄に関する項目を除いた規則的養育4項目の総得点の平均は、12.3点(SD:1.9)で最低点8点、最高点16点となった。総得点が平均以上であった母親(以下高得点群)は31名(36.5%)、平均未満であった母親(以下低得点群)は54名(63.5%)であった。母親の規則的養育と幼児の規則的な生活習慣の関係性では、規則的養育高得点群は低得点群より「朝、決まった時間に排便をする」を達成している幼児の割合が有意に高かった(p<0.001)。また高得点群は、7項目中6項目で規則的な生活習慣を達成している幼児の割合が、低得点群より高い傾向が見られた(表5)。

IV. 考 察

1. 母親が行う規則的養育について

今回の調査で、職業をもつ多くの母親が規則的な生活習慣に関する養育を全般的に行っている傾向が認められた。そして母親の就業形態による規則的養育実施率の違いが見出された。規則的養育の実施率が高かったのは、自営業と常勤の母親で、パートタイムの母親の実施率は自営業、常勤より低かった。

自営業の母親は、他の職業と比較して就業時間を自由に調整することで、時間的余裕をもって幼児に関わっているのではないかと考える。そして幼児のペースに合わせ規則的養育を行っているのではないかと推察する。一方同様に規則的養育の実施率が高かった常勤の母親は、職業の特徴から時間的制約が多いと考えられる。実際に幼児の起床時間が他の職業より早い傾向も見られており、母親が朝早くから忙しく幼児の世話をしている様子が推察される。中塚ら³⁾も、働く母親の子ども達が、時間に追われる母親の生活ペースに取り込まれている様子が窺われると述べており、常勤の母親は決められた時間内で養育を行うため、幼児のペースというより母親のペースに合わせて、時間を決めた養育を行っているのではないかと推察する。またパートタイムの母親は規則的養育を行う事が少なく、これは不規則な職業のため母親自身の生活リズムが乱れるため、規則的養育があまり行えないのではないかと考える。

今回の調査で、排泄に関する規則的養育を行っている母親が少ないことは特徴的であった。排泄の中でも特に排便を誘導するためには時間の余裕が必要であり、対象となった職業をもつ母親がこの養育を行う事は困難であったのかもしれない。しかし排泄の規則性は幼児の健康に重要であり、母親がこの養育を行えるよう支援する必要があると考える。

また拡大家族の中で生活する母親や、同胞のいない母親がより規則的養育を行っていた。これは、拡大家族の場合、祖父母などからの育児支援を受けやすいこと、また同胞がいると育児負担が増加することなどが関係していると考え

る。

以上より母親が規則的養育を実施するためには、まず母親自身の生活を整える事ができるような支援していく必要があると考える。さらに規則的養育を幼児のベースに合わせられるよう、母親の就業形態や育児支援者の有無、育児負担の程度も考慮しながら、母親を支援していく必要性があると考えられる。

2. 幼児の規則的な生活習慣

幼児の規則的な生活習慣には、発達段階に影響されている項目があることが見出された。1歳までは母親が主導で規則的養育を行うことが多く、生活を規則的に整えやすい。それに対し3歳から5歳では幼児の主体性が強くなり、必ずしも規則的な生活ができないという特徴が関与していると考えられる。

今回の調査から得られた幼児の生活習慣に関する結果を松原の先行研究⁵⁾の結果と比較すると、朝の排便とおやつの規則性に関する質問は、達成している幼児が少なかった。また排便の規則性に関しては、就学前に70%以上の幼児が排便の規則性を確立しているという報告⁶⁾と比較しても、今回の調査における達成率は低いといえる。今回は排便の時間を朝に限っている事も影響していると考えられるが、一般的に達成している幼児が少なく、生活習慣の問題として注目される。

さらに、起床時間が決まっていない幼児に、規則的に排便をしていない幼児が多いことも明らかになっている。朝決まった時間に起床する事は時間の余裕をもたらす、規則的な排便習慣に結びついている事が予測される。これは、先行研究⁷⁾の幼児や児童生徒は、基本的な生活習慣が乱れると、排便習慣も乱れるという報告と一致していた。また生活習慣が不規則である幼児は就寝時間も遅く、生活リズム自体も夜型の生活になっており吉川ら⁸⁾の調査結果と同様であった。これより幼児が規則的な生活習慣を確立するためには、幼児の生活全般が規則的となるように母親へ支援していく必要があると考えられる。

3. 母親の規則的養育と幼児の規則的な生活習慣

多くの母親が行っていた規則的養育と幼児の規則的な生活習慣の関係では、母親が規則的養育の実施率が高いと規則的な生活習慣を達成している幼児が多くなる傾向が明らかになった。特に達成率が低かった幼児の排便を規則的にする上で、母親の規則的養育が関係していたことは注目すべき点である。中川ら⁹⁾は、母親がしつけを行っていることを認識していても、実際に幼児がその生活習慣を身につけていない事があると述べている。今回の調査でも母親が規則的養育を行っていても、それに関連する幼児の規則的な生活習慣が確立していない場合も認められた。これらより規則的養育の実施の有無だけでなく、その養育態度・有効性等にも注目する必要があると考える。

以上から母親の就業形態により、母親の規則的養育が異なり、それが幼児の規則的な生活習慣の達成にも影響していることが明らかになった。母親へ育児支援を行う場合、母親の就業形態や母親の生活にも注目する必要性があると考えられる。また看護職としては、それらを踏まえ、幼児の日常的な育児方法に関する具体的援助を行っていく必要があると考える。今回の調査は1施設に限られており対象数も少ないため、今後さらに調査を続け母親への育児支援について考えていきたい。

V. 結 論

職業をもつ幼児の母親88人に、母親の規則的養育と幼児の日常生活に関する質問紙調査を行った結果、以下の事が明らかになった。

- 1) 職業をもつ母親の80%以上は睡眠、食事、清潔に関する規則的養育をおこなっていた。
- 2) 起床・排泄・入浴に関する規則的な養育の実施率が高かったのは自営業と常勤の母親であり、パートタイムの母親は自営業や常勤より実施率が低かった。
- 3) 幼児の起床時間は、母親が常勤とパートタイムの場合午前7時、自営業では午前8時となる割合が最も高かった。
- 4) 食事、睡眠、清潔に関する規則的養育を行っている、規則的な生活習慣を達成している幼児の割合が高い傾向が認められ、特に毎朝排便

が規則的にできている幼児の割合は有意に高かった。

VI. おわりに

今回の調査で母親の就業形態と母親の規則的養育行動に関連があり、さらに規則的養育が幼児の規則的な生活習慣に影響を及ぼしていることが示唆された。今後はさらにその関係を明らかにし、母親が幼児の規則的な生活習慣の確立に効果的な養育を行えるよう、育児支援を検討することが必要であると考えます。

最後に今回の調査に御協力頂きました保育園の皆様、そしてアンケートに御協力頂きましたお母様方に心よりお礼を申し上げます。

引用文献

- 1) 上田礼子著. 生涯人間発達学. 第1版 東京: 三輪書店. 1996.
- 2) 吉村健清, 徳井教孝, 大石昂 他. 児の生活習慣に影響する児の行動・性格特性と両親の養育態度, 心理・行動特性に関する疫学調査. 厚生省心身障害研究, 小児期からの健康的なライフスタイルの確立に関する研究. 1996: 202-207.
- 3) 中塚綾子, 大瀧ミドリ. 保育所児の基本的生活習慣の自立と母親の対応. 小児保健研究 1993; 52: 28-34.
- 4) 松田惺, 鈴木眞雄, 永田忠夫, 他. 母親の就業形態からみた母親の家族環境・社会的ストレスの認知および子どもに対する態度. 愛知教育大学研究報告 1986; 35 (教育科学編): 96-116.
- 5) 松原達哉. 生活能力の発達. 村田眞雄編. 日本の幼児の成長発達に関する総合調査. 第1版 東京: サニマーク出版 1987: 618-624.
- 6) 中村晴信, 甲田勝康, 中村留美子, 他. 幼児の生活習慣の変化についての縦断的研究. 小児保健研究 1999; 58: 690-695.
- 7) 福富和博. 便秘傾向にある幼児及び児童生徒の生活習慣・意識についての一考察. 保健の科学 1999; 41: 307-312.
- 8) 吉川伸美, 松本三重子, 西田光子, 他. 育児支援のための家族のライフスタイル調査. 松仁会医学誌 1998; 37: 53-59.
- 9) 中川美子. 母親のしつけと幼児の日常生活行動に関する研究. 小児保健研究 1989; 48: 537-544.